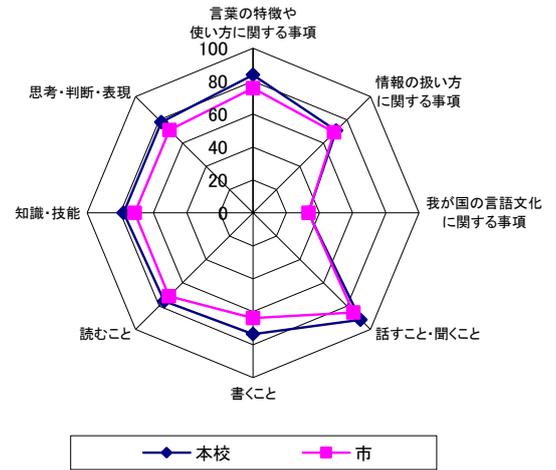


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.8	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	70.8	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	33.3	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	91.7	85.5	86.5
	書くこと	73.6	63.9	65.8
	読むこと	75.7	71.6	69.5
観点別	知識・技能	78.0	71.3	72.9
	思考・判断・表現	78.1	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

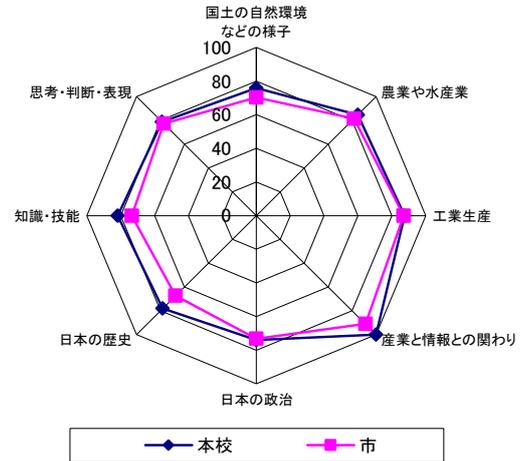
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、8ポイント上回った。 ○三字の熟語の成り立ちについて問う設問では、市の平均正答率より高く、よく理解されている。 ○文と文との接続の関係を理解しているかを問う設問では、市の平均を19.3ポイント上回った。 ●敬語について理解し、正しく使っているかを問う設問では、市の平均を2.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習漢字に関しては家庭学習等で積極的に漢字練習に取り組ませたり、定期的に小テストを行ったりして、理解をより深めることができるようにする。 ・授業の中で敬語の復習をする機会をもったり、普段の生活の中で敬語を使う場面を意識させたりして、敬語の言葉使いを定着させる。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、1.7ポイント上回った。 ○原因と結果など情報と情報について理解しているかを問う設問では、市の平均正答率より高く、1.7ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な言葉を使って短い文章でまとめるなどの活動を通して、文章の情報を理解する力を高めるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市とほぼ同じだった。 ○語句の由来に関心をもち、和語・漢語・外来語について理解しているかを問う設問では、市の平均正答率とほぼ同じだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習や既習漢字の復習の際に、漢字の読み方が和語なのか漢語なのかを繰り返し問い、理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、6.2ポイント上回った。 ○話の意図に応じた質問を考える設問では、市の平均正答率を10.7ポイント上回った。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、市の平均正答率を5.2ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動では、議論する内容について要旨をまとめて話すよう司会者に指導したり、他者の意見の内容をしっかり受け止めてから自分の意見を述べるよう促したりするなどして、内容の理解を図っていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、9.7ポイント上回った。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く設問では、市の平均正答率を11.2ポイント上回った。 ●目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にする設問では、市の平均正答率を1.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに感想文を書いたり、各教科の授業後に振り返りを書いたり、週末に作文の課題を出したりする活動をこれからも継続して、さらに書く力を高めていく。 ・目的や意図に応じて情報を選ぶことで、より説得力のある文章になることを意識した作文指導をしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、4.1ポイント上回った。 ○物語文の登場人物の心様子について、描写を基に捉える設問では、市の平均正答率を12.2ポイント上回った。 ○説明文の目的に応じて、文章の情報を整理する設問では、市の平均正答率を13.3ポイント上回った。 ●説明文の叙述を基に文章の内容を捉える設問では、市の平均正答率を4.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の学習では、問いとの関係が深い文などには線を引きながら読むなどして、叙述をもとに登場人物の心情を想像し、文章でまとめる機会を設けていく。 ・説明文の学習では、学習の最後で分かったことや筆者の願いなどを短い文章でまとめることや、調べ学習で分かった結論を短くまとめて話す機会を意図的に展開していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.8	70.3	66.4
	農業や水産業	84.7	81.6	75.3
	工業生産	87.5	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	100.0	91.0	81.3
	日本の政治	74.0	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	78.1	67.4	68.5
	知識・技能	81.8	73.5	72.5
	思考・判断・表現	78.7	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

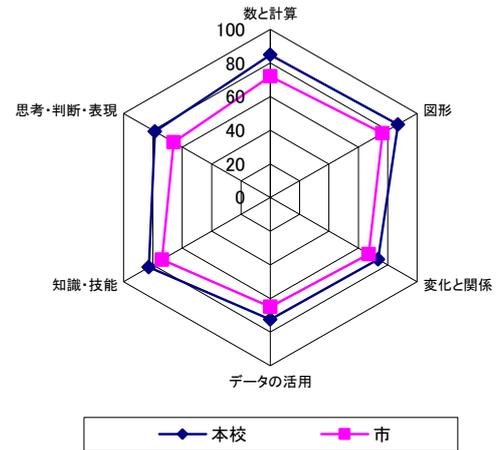
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 市の平均正答率より高く、5.5ポイント上回った。 ○「近年日本で起きた自然災害の発生場所について理解している。」の正答率は79.2%と、市の平均正答率を18.9ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用し、周辺の海洋や世界の主な国の位置、日本の国土について取り扱うようにする。 ・海洋名や国旗などは、練習問題を活用して繰り返し学習の場を設けることで、知識のさらなる定着を図る。 ・世界地図や日本周辺の国や様子が分かる掲示物を常時掲示し、折に触れて話題にするなど、学習内容が定着するような工夫をする。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率より高く、3.1ポイント上回った。 ○「水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料をもとに判断している。」の正答率は100%と、市の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集を活用し、図やグラフ等の資料を読み取る機会や読み取った内容を自分の言葉で伝える機会を多く設けていく。 ・引き続き農業体験と教科の関連を図りつつ、体験を基にした実感を伴った学びの機会をさらに充実させていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率よりやや高く、0.5ポイント上回った。 ○「自動車の製造工程について理解している。」の正答率は95.8%と、市の平均正答率を7.1ポイント上回っている。 ●「安全性の高い自動車づくりについて、資料をもとに考えている。」の正答率は、市の平均正答率を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集を活用して、資料を正確に読み取る力の定着をさらに図る。 ・自動車の製造工程や研究開発の工夫などを、動画資料等を活用してより理解できるようにする。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率より高い。 ○「情報の発信と受信の注意点について考えている。」の正答率は100%と、市の平均正答率を11ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科のみならず、情報モラルに関する出前授業等も活用しながら、情報の発信と受信の注意点について今後も指導していく。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率よりやや高く、0.8ポイント上回った。 ○「法律ができるまでの流れについて、資料を読み取っている。」の正答率は87.5%と、市の平均正答率を11.6ポイント上回っている。 ●「租税の役割についての理解をもとに判断している。」の正答率は、市の平均正答率を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民的分野の言葉は児童にとって聞き慣れないものも多いため、引き続き資料集や社会科教育番組を活用して、内容をより分かりやすく伝えられるようにしていく。 ・配付される租税教育に関する資料も活用しながら、税金の使われ方や重要性について伝えられるようにする。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均正答率より高く、10.7ポイント上回った。 ○「能について理解している。」の正答率は91.7%と、市の平均正答率を29.6ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や資料集を活用して、歴史的現象について位置的、空間的に捉えられるよう、指導内容を工夫する。 ・教科書の内容の暗記に留まることなく、背景にあった出来事や社会の情勢等も踏まえ、歴史的現象を多面的に捉えられるよう資料提示や活動内容をさらに充実させる。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.8	72.1	74.6
	図形	87.0	76.5	76.1
	変化と関係	73.3	67.1	59.7
	データの活用	72.5	65.0	64.5
観点別	知識・技能	82.7	73.8	74.7
	思考・判断・表現	78.7	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

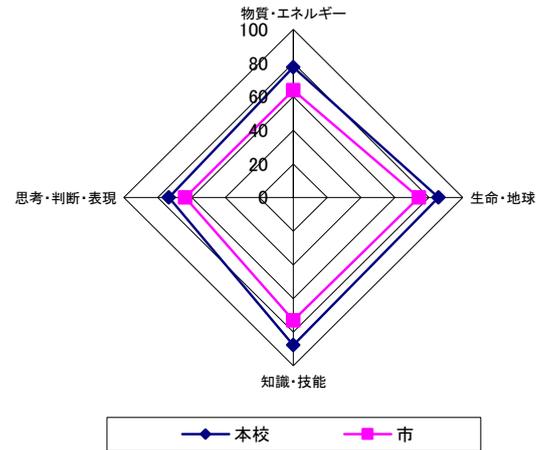
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、12.7ポイント上回った。 ○分数の計算についての設問では、分数+分数、分数÷整数の計算で正答率が100%であった。 ○小数の文章問題を正しく表した図を選ぶ設問では、正答率が100%であった。 ●比較量が基準量の何倍になるかの式を選ぶ設問では、正答率が市の平均を6.4ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や授業の開始時などの時間を活用して小数や分数の計算練習を行ったり、それぞれの単元において小数や分数の数値を扱った問題に取り組みさせることで、確実な定着に繋げる。 倍の問題は繰り返し復習を行い、文章問題から基準量を正しく見付けられるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、10.5ポイント上回った。 ○全ての設問において、正答率が市の平均を上回った。 ○複雑な立体の体積を求める式を選ぶ設問では、正答率が市の平均を18.5ポイントと大きく上回った。 ○合同な図形を作図する設問では、正答率が100%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の学習では、既習の面積や体積の求め方を復習し、操作活動を取り入れながら既習事項を活用して学習を進めていくことで、公式の暗記ではなく、求め方について思考を伴って理解できるようにする。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、6.2ポイント上回った。 ○「単位量あたりの大きさを求めて説明する設問では、正答率が市の平均を23.5ポイントと大きく上回った。 ●表から割合を求め考察する設問では、正答率が市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの大きさでは、問題による正答率の差が見られるため、教科書だけでなくプリントやAIDリルも活用しながら、単位量あたりの大きさを求めて比べる問題を多く取り組ませ、場面に応じて数を揃えて比べることができるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市より高く、7.5ポイント上回った。 ○全ての設問において、正答率が市の平均を上回った。 ○0を含む平均を求める設問では、正答率が市の平均を12.3ポイント上回った。 ●ヒストグラムを見て説明する設問では、市の平均を上回ったが、他の設問と比較すると正答率が低くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会や国語など他の教科の時間においても、表やグラフの見方を復習したり、必要な数値に着目して自分の考えをまとめたりする活動を繰り返し行うことで、表やグラフを活用する力を伸ばしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.5	63.8	61.6
	生命・地球	85.7	74.1	73.3
観点別	知識・技能	87.7	73.0	71.3
	思考・判断・表現	73.4	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より高く、13.7ポイント上回った。 ○「水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを理解している」についての設問の正答率は、市の平均正答率を20ポイント以上上回った。 ●「引きつけたゼムクリップの数から、コイルの巻き数と乾電池のつなぎ方を推測できる」についての設問の正答率は、市の平均正答率を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実験の手順確認の中で、実験前後の同じにする条件について全体で確認し、正しい実験方法について技能の定着をさらに図る。 ●どの条件のときにゼムクリップが多く引きつけられるかなど、2つの実験結果を比較して気が付いたことを話し合ったり、共有したりすることを通して、考察する力を高めることができるようにする。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●市の平均正答率より高く、11.6ポイント上回った。 ○「浸食について理解している」の設問の正答率は、市の平均正答率を20ポイント以上上回った。 ●「葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考えることができる」についての設問の正答率は市の平均正答率を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●視聴覚教材を積極的に活用して学習したことがイメージできるようにしたり、単元の最後に学習したことを図やイラストを使って新聞にまとめさせたりすることで、知識・理解の定着をさらに図る。 ●観察結果からの気づきを自分の言葉で考察させたり、全体で話し合っって共有する時間を設けたりすることで、なぜそのような結果になったのか考える力を高める。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着が図れるようにしている。	国語、社会、算数、理科の全てにおいて、教科の正答率が市の平均正答率を上回っており、知識・技能、思考・判断・表現の観点別の正答率も、市の平均正答率を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では、家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問で肯定的な回答した児童の割合はどの学年も市の平均肯定割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・各教科における基礎基本の確実な定着を図るため、次年度も継続して朝の学習の時間を活用するなどして、複数体制による指導の充実を図っていく。また、授業内においても学んだ知識を活用して考える練習問題を意図的に設定したり、個に応じた補充学習ができるような授業展開にするなど児童一人一人にとって取り組みやすい学習の場を設定していく。
- ・基本的な問題だけでなく応用問題や記述問題などに取り組むとともに、自分の考えをまとめたり、思考過程を文字で記述したりする機会を確保し、様々な問題の形式に慣れることができるようにする。そのために、自分の考えを書くために必要な視点（順序・目的・構成など）を押さえて指導する。
- ・市の児童質問紙の結果から、「一日にどれくらい本を読んでいますか。」の問いに対する肯定割合は、学校のある日は高いが休みの日は低い結果となっている学年がほとんどであった。学校では、朝の「どっぷり読書タイム」やボランティアによる読み聞かせ、さらに1週間に一度は学級全員が図書室を利用して読書の時間を設けている。一方、家庭でも定期的に「家読」（ファミリー読書）を依頼してきたが、家庭における読書時間の個人差は大きい。今後も継続して、家庭との連携を図りながら、学校全体で読書の推進に努め習慣化を図りたい。
- ・「学習と生活についてのアンケート」の結果において、肯定回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。